



## 出穂が早まる予想！ 正確な穂肥診断で適期適量の穂肥を！！

6月30日現在の生育は、草丈が長く、茎数は多い、葉齢はやや早く、葉色は平年並～濃く推移しています。水田農業研究所による幼穂調査【6月29日現在】では、出穂は2～3日程度早まると予想されています。

草丈が長く葉色も濃いことから、引き続き作溝・中干しを徹底し、穂肥ができる稲姿に仕上げましょう。特に今年は、圃場ごとの生育のバラつきが見られますので、平均的な生育量を見極め、生育診断表を目安に適切な穂肥を行いましょう。

また、これからは葉いもちや斑点米カメムシ類、大豆では食葉性害虫やアブラムシ等が発生する時期となります。農道・畦畔の草刈り、圃場内の雑草の除去を徹底し、病虫害発生の未然防止を心がけましょう。

◎現在の生育状況（6月30日現在の生育診断圃データ）（ ）内は平年対比、指標比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD)
は え ぬ き	54.8 cm (116)	784 本/m <sup>2</sup> (118)	9.9 (+0.6)	42.3 (+0.6)
つ や 姫	55.8 cm (126)	540 本/m <sup>2</sup> (108)	10.1 (+1.2)	42.2 (-0.9)
雪 若 丸	42.4 cm (94)	753 本/m <sup>2</sup> (112)	9.5 (-0.1)	45.4 (+3.4)

### 技、其の一 作溝・中干しの徹底を！

6月下旬は平年に比べて雨が少なく経過していますが、中干しが不十分な圃場も見受けられます。**穂肥までに作溝の手直しを行い、暗渠排水を利用し、「小ヒビが入る程度の中干し」を確実にいきましょう。**幼穂形成期から穂揃期にかけては水分と酸素を最も多く必要とします。中干し後は、走り水により徐々に慣らし、出穂前まで間断灌水（2日湛水して、2日落水するのくりかえし）を続けましょう。

用水不足時の灌水を効率的に行うためにも、仕上げ作溝は早期に行いましょう。（特に高温・強風時における灌水を速やかに行うことができ、稲体も保護されます）

#### 中干し後、KSK28を施用する場合

①初期水位を1～2cm程度確保する。（水面はヒタヒタ状態にする）②水尻は閉じて30aに4.2kg1個（10分程度）を水口から流し込む。③流し込み後も入水を続け、水位8cm程度で止水。④流し込み後は3～5日程度止水し落水しない。

### 技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りで！

病虫害防除所からの6月30日付けの農作物有害動物発生予察情報（第4号）では、斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」と発表されています。カメムシ類の増殖を抑えるため「こまめな草刈り」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図ることが重要です。また、**8月は草刈り休止期間です。草刈りは8月上旬の無人ヘリ防除の前までに終わるようにし、その後は8月末まで行わないようにしましょう。**

#### ☆葉いもちの発生に注意！！

今後の天候次第では葉いもちが発生する恐れがあります。葉色が濃いところや、昨年発生した圃場では注意深く観察し、発生が確認されたら最寄りの営農課へご相談ください。

### 技、其の三 予想出穂期(6月30日現在)

☆今年の出穂期は、“やや早い（2日程度）”と予想しています。

ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
8/1～	8/2～	8/2～	8/8～

### 技、其の四 穂肥は的確な生育診断で適期に適量を！

穂肥が適期にできる稲の条件は①葉色が低下している②葉伸びしていない③茎数がすっきりしていることです。（下表参考）

品 種	葉色	草丈 (cm)	茎 数 (本/m <sup>2</sup> )	穂肥対応 (N成分kg/10a)					
				-30日	-25日	-20日	-18日	-15日	-10日
はえぬき	4.8	60	630以下		2.0		(1.0)		
はえぬき(低地力)				1.5～2.0		1.0～1.5			
ひとめぼれ	4.5	60以下	630以下			1.5			(1.0)
雪若丸	5.2	55以下	670以下		1.5				
つや姫	4.8	60	550以下	1.5		みどり特栽培穂肥028号			
つや姫(高地力)					1.2	庄内穂肥専用545、らくらく522、化成肥料15-4-15			

※（ ）内の数値は、穂肥施用後に葉色が維持できない場合は実施する。

※葉色板(フジカラスケール)と葉緑素計 (SPAD) の換算値 (目安)

{(SPAD値)+10} ÷ 10 = 葉色板の値 (例) (38+10) ÷ 10 = 4.8 ← 葉色板の値

### 技、其の五 葉色が濃い稲への対応！

はえぬき (11.0葉期) 出穂前25日の葉色	5.0以上⇒ N成分1.0kg/10aに減肥して施用する。ただし(4.0以上) 葉色5.5以上の場合、穂肥は行わない。(ケイ酸追肥は可)
ひとめぼれ (11.5葉期) 出穂前20日の葉色	4.8以上⇒ 葉色低下を待って対応、ただし出穂前10日になっても(3.8以上) 葉色が濃ければ穂肥は行わない。(ケイ酸追肥は可)
つや姫 (10.5葉期) 出穂前30日の葉色	4.9～5.1⇒ N成分1.0kg/10aに減肥して施用する。(3.9～4.1) 5.2以上⇒ 25日前までに適正葉色まで低下しない場合、穂肥は(4.2以上) 行わない。(ケイ酸追肥は可)

## 技、其の六 倒伏軽減対策！

生育が過剰となり倒伏が懸念される場合には、倒伏軽減剤を使用します。

### ○ひとめぼれ

稈長82cm以上となり、倒伏が懸念される出穂20日前（11.5葉期）の稲姿

草丈 (cm)	葉色	生育量 (cm×本/m <sup>2</sup> )	1株当り本数 (70株植え)
62	5.0	39,000	30本以上

### ◆使用薬剤

薬剤名	使用時期	使用量	備考
ロミカ粒剤	出穂前25～10日	2～3kg/10a	上位節間伸長抑制
スマレクト粒剤	出穂前20～7日	2～3kg/10a	

※特別栽培米は、倒伏軽減剤及び倒伏軽減剤入り肥料は使用できませんのでご注意ください。

※スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

※窒素肥料が使用できない圃場には、ケイ酸資材を使用しましょう。

### <直播情報>

◎湛水直播(鉄コーティング直播)は中干しの時期に入りました。根張りを良くし、耐倒伏性を高めるため、中干し開始の目安となる470～530本/m<sup>2</sup>を確認して、時期を逃さず実施して下さい。茎数不足の圃場では、つなぎ肥や浅水管理で引き続き茎数確保に努め、遅くとも9葉期(7月中旬)までには中干しに入りましょう。

### <大豆情報>

◎降雨時は、こまめに圃場を見回り、早期に明渠の手直しなどを実施し、停滞水の排水に努めましょう。大豆の根を湿害から守るため、できるだけ速やかな排水対策を行いましょう。

◎天候に合わせ、**培土**を遅れずに実施しましょう。(雑草対策も！)

◎食葉性害虫やアブラムシ類の発生が心配されます。高温・乾燥で発生が急増した過去の例もありますので、圃場・生育観察で早期発見・被害防止に努めましょう。

### <農薬飛散防止対策について>

残留農薬等のポジティブリスト制度に伴い、粉剤等で防除を実施する場合には、周辺の園芸作物の種類、収穫時期等を事前に把握し、**農薬の飛散防止・低減対策を確実に**行ないましょう。ドリフトが原因で農産物が流通(出荷・販売)不可になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。散布時には、**風速・風向に注意して下さい。**

しっかり育てよう！庄内みどりのつや姫・雪若丸

つや姫・雪若丸情報コーナー

しっかり中干しを行い、バッチリ穂肥のできる稲姿に仕上げよう！

●穂肥時期は、「雪若丸」は出穂の25日前、「つや姫」は有機質入り肥料で出穂の30日前です。遅れずに穂肥ができるように準備しましょう。

●葉色の濃いつや姫には、適期適量の穂肥施用ができません。茎数が多い・葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを継続しましょう。

## 園芸情報

### 長ねぎ露地春どり栽培(春ねぎ)の管理について

長ねぎは秋冬どり栽培が主体ですが、春ねぎは端境期での出荷となるため、需要は旺盛で安定価格での販売が見込めます。しかし、秋冬ねぎに比べ栽培期間が長く、収穫適期幅が短い作型です。下記のポイントを参考に高品質・高収量の春ねぎ栽培に努めましょう。

○使用品種

「羽緑一本太」などの晩抽性の品種を使用します。

○栽培管理

§播種時期：5月下旬～6月中旬

高温対策として発芽するまでは遮光資材を活用し、発芽後は外して光を当てましょう。高温期に向かっている育苗となるため、乾燥に注意し適宜灌水します。

§定植時期：7月上旬～8月上旬

気温が高いため苗の生育が早いので、老化苗にならないよう適期に定植しましょう。注意しましょう。

§収穫時期：翌年4月中旬～5月下旬

抽苔するまでが収穫期間のため、よく観察して遅れないよう収穫します。

【ポイント】

越冬前に生育が進んでいないと越冬できず欠株となってしまうため、越冬時の生育は収穫時の7割程度確保します。また適期収穫が重要です。その為に以下の様な管理に努めましょう。①明渠など圃場の排水対策を徹底しましょう。②生育に合わせて土寄せは土削りを2回、越冬後に1回～2回行います。越冬前の土寄せは分岐下まで行い、倒伏を防ぎましょう。収穫前、軟白長の伸びが足りない際は土寄せを追加します。

③追肥は土寄せ直前に行います。追肥の目安量は窒素成分で3～4kg/10aを3回です。肥料切れは抽苔を早めます。また、越冬前にロング肥料(100日)を施用すると越冬後のスムーズな生育の動きだしが期待できます。

④病害虫は秋冬ねぎと同じく軟腐病に注意しましょう。高温時の土寄せや灌水は厳禁です。害虫は発生初期のうちに防除することが重要です。

越冬時は商品になる葉に、病斑やアザミウマ類など害虫の食害痕がないように薬剤散布による防除を徹底しましょう。5月収穫は気温も上がり、べと病やさび病が出やすい時期になるため、発病前の予防防除を徹底します。

○抽苔(ねぎ坊主)発生時期の予測

収穫が近づく4月上旬頃から試し掘りをして、葉鞘を包丁で縦に切ります。葉鞘内部に「花房」が見られたら、その上に何枚の葉があるか確認します。葉が1枚展開するのに7日～10日かかるため、葉の枚数から抽苔時期を予測することができます。必ず抽苔時期を予測し、計画的に収穫するようにしましょう。

★次号の発行は7月20日です！